

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		生活リハビリセンター六三四		第三者評価受審年度	令和5年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和5年度)	改善計画 (令和5年度末時点)	実施状況 (令和5年度末時点)	実施状況 (年度末時点)	
医療やリハビリなどの専門職との連携について	事業所内では適正に看護師が配置され、利用者様より健康相談を受けた際にも必要に応じスムーズな対応が図られ、事業所敷地内に隣接するクリニックの嘱託医とも日頃から連携が図れる体制を築いている。	ST(言語聴覚士)、PT(理学療法士)の専門的訓練も受けられる体制が整っている。多職種とも日常的に連携し取り組んでいる。利用者様の健康状態は、毎朝の送迎時の会話や顔色、ご家族からの報告等で健康状態を確認し、来所後におけるバイタル確認の実施により、体調の変化がないか注視することに努めている。	看護師が常駐している為スムーズな対応がとれており、必要に応じ看護師から、通院、服薬、バランスの良い食事摂取についての助言送ったり、利用者様懇談会の中で必要に応じ感染予防を呼びかけたりしての洗い方など看護師から説明している。また服薬時は、看護師と職員で確認体勢を取り、服薬確認シートを作成し細心の注意を払っている。		
利用者様の意向の表出できる環境について	毎月、利用者様懇談会を継続し行っており、意見や要望を表出できる場として取り組んでいるが、ご家族からの意見や要望、生活状況の相談などの場を構築することが課題となっている。	事業所内での活動、行事を利用者様も企画から参加でき、意欲の向上にもつなげ、実現できるよう取り組むよう計画している。ご家族に向けては定期的なホームページの更新することで施設の見える化に取り組む、必要に応じ面談や聞き取りを実施し在宅状況等の把握にも努めている。	利用者様からの意見や要望をもとに行事を実施することができており、ご家族に向け事業所の取り組みや開催行事の内容を施設たよりやホームページを用いて見える化に取り組んでいる。面談により在宅状況等の変化や予測に努め緊急時の対応に備える体制を整えている。		
事業所の新たなプログラムや取り組みについて	事業所では革工芸のほか、訓練の一環として取り組んでいる麻雀や身体を動かすゲーム、利用者様がやってみたいと思うプログラムに参加できるよう取り組んでいる。プログラムの幅を広げていく他、利用者様の活動能力に合わせたプログラムの構築が課題となっている。	現在事業所ではより利用者様に満足していただけるよう個々人の意向をプログラムに反映させている。地域などの販売会なども再開されたことを受け、各種販売会に参加することができている。地域の農家との連携による活動もはじめており、新たなプログラムの確立を計画している。	専門職との機能訓練内容による利用者様の活動能力の把握、活動内容に対し利用者様から意向の聞き取りを実施し、外食や、日帰り旅行など外出の機会も増やしている。施設内での支援会議により職員のアイデアの抽出を行いプログラムに反映させている。		

※この様式は、「〇〇市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。